



# HIGA NEWS

2020年10月 第56号

編集・発行 一般社団法人ひろしま通訳・ガイド協会(HIGA)



会員の撮った1枚



## シースピカ 観光型高速クルーザー「SEA SPICA」

「せとうち広島デスティネーションキャンペーン」に合わせて、観光型高速クルーザー「SEA SPICA」で瀬戸内の島巡りを楽しむ新航路「瀬戸内しまたびライン」が運航を開始しました。

「SPICA(スピカ)」とは、豊穡の女神を象徴する乙女座の一等星で、日本名を真珠星といいます。この船が、瀬戸内の海で青白く美しい輝きを放ちながら、お客様を自由に開放的な旅に誘いたい、という思いを込めて命名されたとのことです。

6ページの乗船体験記をご覧ください。

# 文化講演会「広島と移民」

英語・仏語会員 伊藤 俊治

「広島と移民」をテーマに、ひろしま通訳・ガイド協会文化講演会が9月13日、JMSアステールプラザで開催された。講師には広島県立文書館名誉館員で、日本アーカイブス学会登録アーキビスト安藤福平氏をお迎えした。新型コロナウイルス対策のため、会場は一般参加者を含めた20名のみの聴講とし、多くの会員はZoomでのオンライン視聴となった。

講演に先立ち、古谷章子会長から、15年にわたり米国ハ



ワイ州から被爆地・広島へ奨学生を毎年招いてきた「嘉屋日米交流基金」(1992-2007)及びその14名の奨学生のその後の活躍ぶり等が紹介された。そして、安藤氏が登壇し、約1時間半にわたり、パワーポイントでグラフや当時の写真などを映しながら、移民の歴史やハワイや米国本土での生活の様子などをお話された。

初回の1885年から1894年まで合計26回の官約移民(政府の斡旋、契約による移民)29,131人は、出身県別で見ると、広島(39%)、山口(36%)、熊本(15%)、福岡(8%)の4県

合計で98%を占めていた。初回から第3回までは3府28県と全国から募集していたが、各県から少人数の募集は手間もかかった。広島や山口では、農夫に限定して募集し、ハワイでもよく

働くと評判も良かったため、以降はこの両県から多くの移民を募集するようになった。

広島からハワイへの官約移民11,122人のうち、佐伯郡、安芸郡、沼田郡(現安佐南区)、高宮郡(同安佐北区)など太田川流域や広島湾岸等特定の地域からが大部分を占めた。後者の地域出身者が多かったのは、宇品港の埋め立てにより多くの漁民が漁場を失ったためである。

当時の在ハワイ日本領事館の報告によると、日本人のハワイでの生活はさとうきび畑での重労働が中心で、当初は医療、通訳の不足や、博奕(ばくち)などの問題があった。しかし、中国やポルトガルからの移民に比べて、低賃金でもよく働くと認識されていた。

1890年代から1900年初頭にかけて、より豊かな暮らしを求めてハワイから米国本土やカナダへの移民が始まった。その数が激増したため、移民



を制限する動きも強まり、日米移民摩擦が起こり、やがて第2次世界大戦の渦に巻き込まれていった。

「日本人のハワイ移民の歴史を振り返ることで、現在の日本での移民問題を考える視点が得られるのではないか」との言葉で講演が終了した。



私は昨年12月1日、2019年度HIGA研修旅行「周防大島～人、自然、歴史文化が輝く瀬戸内の要所」に参加したときに、日本ハワイ移民資料館も訪問した。そこで、広島や山口からハワイや中南米への移民の現地での生活の様子を垣間見ることができた。今回の文化講演会で、日本人移民の歴史的背景や当時の貴重な資料をわかりやすくご説明いただき、日本人移民に関して、より一層理解を深めることができた。

みやじまの宿

# 岩惣

〒739-0522 広島県廿日市市宮島町もみじ谷  
TEL 0829-44-2233 <http://www.iwaso.com/>

伊豆の  
はやし

おかげさまで七十二周年  
宮島で一年中  
生かきが食べられます

TEL 0829-44-0335



## コロナ禍をチャンスに変える

会長 古谷 章子

ひろしま通訳・ガイド協会（HIGA）は1992年に、2年後に控えたアジア競技大会の国際コミュニケーションの現場で働く人材を組織化して欲しいと広島県の要請を受け、42名で発足しました。ガイドの就業件数は1993年の300件が、2019年には4,000件近くに増えました。2003年に小泉元首相が提唱された、2010年までに訪日客を1,000万人にするビジットジャパンキャンペーンをきっかけに、インバウンドツーリズムが推進されてきたからです。オリンピックの開催が予定されていた今年2020年は、訪日客数4,000万人が目標とされていました。しかし新型コロナウイルスで訪日客は激減、オリンピックも延期となりました。

残念ではありますが、これは日本のそして広島県のインバウンドの将来を考えるチャンスにできると思います。1996年に世界遺産登録された原爆ドームと厳島神社のおかげで来広観光客数

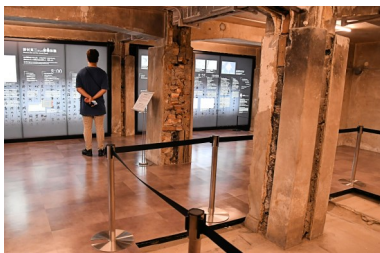
は大きく増加しましたが、2度3度と来ていただくためには何が必要か。神社、仏閣、資料館だけでなく、清浄な空気と水、美しい自然、その地域ならではの「食」、人々が心をこめて創り出した美術工芸や伝統芸能など。

HIGA会員は自分が関心のあるテーマでサークルを作り、Zoomで話し合いを持ったり、実地研修に出かけたりします。また魅力的な訪問地をYouTube動画にしてウェブにあげています。学ぶこと、伝えることの楽しさが人に活力を与えたいと思います。HIGAが知的好奇心旺盛な会員の学びや研修の場を提供し、そこで得たスキルを通訳案内の現場で活かし、「ひろしまのガイドはすごい！」と言われる場面をもっともっと増やしていきたいと思います。会員以外の皆様にはご支援とご協力を、会員の皆様には、自分に何が出来るか考えて、HIGAの活動への積極的参加をお願いします。

## 生まれ変わったレストハウスが受け継ぐ75年前の記憶

英語会員 大川 富美

以前より濃い色合いの外観に戸惑いながらも、7月に再オープンした平和記念公園のレストハウスに足を踏み入れました。洒落た土産物が並ぶ入口を抜け、階段を下ると、被爆当時の姿で保存された地下室があります。ひんやりとした室内は、安全のために床は舗装されていますが、柱や壁の一部は古いまま。1945年8月6日朝、この地下室に



いた野村英三さんは、奇跡的に助かりました。その時の状況が日本語と英語で詳しく紹介されています。

改修前に比べ、きれいになりすぎ、との批判もあるそうですが、外壁は1929年の建設時の色を再現。工事は丹念に調査をしながら進めたため、2年以上かかりました。「当時の空気を感じてもらうために、なるべくそのままに残したかったのですが、安全面から改修が必要な部分もあり、両立が難しい工事でした。」と話してくれた市の担当者の声には苦労が滲んでいました。

原爆投下から75年。人の一生ほどの長い年月を

超えて、あの体験を語り継いでいくのは容易なことではありません。被爆者の高齢化が進む中、原爆の証人としての被爆建物の存在はさらに貴重になるはず。広島のみならず戦前からものづくりを礎に平和都市に生まれ変わったように、被爆建物も忘れてはいけない記憶を内部にとどめながら、装いを新たにすることは必然かもしれません。



市の被爆建物リストのうち、爆心地から1キロ以内の建物はわずか9つ。外国人旅行者にとって、平和記念公園内にあるレストハウスは、原爆ドームと共に最も立ち寄りやすい被爆建物でしょう。平和記念資料館で被爆の実相を目にした後、ここで生き延びた野村さんの体験を実感することで、さらに深く「ヒロシマ」が心に刻まれることと思います。

市

※以前は見学には予約が必要でしたが、開館時は常時見学が可能。館内でQRコードを読み込めば中国語、韓国語、フランス語の説明を見ることが出来ます。

## 2019年度 研修旅行「周防大島～人、自然、歴史文化が輝く瀬戸内の要所」

英語会員 一反田 昌子

2019年12月、山口県周防大島町を訪ねました。

まず「日本ハワイ移民資料館」の見学です。建物は、帰国された方の元ご自宅で、屋久杉の天井と欄間の豪華な部屋に迎えられました。木元真琴館長のお話や、展示や映像を通して、さとうきびプランテーションでの厳しい労働で得たお金を大島の家族に送金をしていたこと、水路や用水工事では、島民の大工や石工の高い技術が評価されるようになったことなど、大島移民の歴史を学びました。現在、全国からハワイへ渡航した人々13万5千人のデータが検索できる貴重な場所となっています。



その後、ホテルサンシャインサザンセットへ。食事は、売り出し中の「みかん鍋」と「タチウオの鏡盛り」の

入った特別メニューです。小ぶりのみかんは、鍋専用に無農薬で作られており、皮まで食べられます。タチウオの刺身は、新鮮で皮が銀色に輝き、正に鏡のようでした。周防大島は、長い日照時間、海面反射による下からの日照、海のリネラルが風に乗って運ばれるなどの好条件で、山口県の8割のみかんを生産しています。ホテル前の青く輝く海が印象的でした。

午後は、「陸奥記念館」と「なぎさ水族館」へ。戦艦陸奥が沖合で謎の大爆発を起こし、多くの犠牲者が出た地です。引き揚げ回収された物品、遺品、資料等の展示により戦争の悲惨さを伝えています。隣の「なぎさ水族館」では、世界で初めてア



ワサンゴの人工繁殖に成功しました。アワサンゴは動物で、褐虫藻という植物を体内に持ち、褐虫藻の行う光合成によってできる栄養で生きていることや、水温27℃以上になると、褐虫藻が体内から逃げ始め、サンゴの白化が始まることなど、山口県東部海域にエコツーリズムを推進する会の藤本正明会長から、詳しく解説していただきました。80種類740匹の展示物は、大島近海の生物で、解説文も楽しく、生き物たちの不思議に魅了されました。

最後は、「瀬戸内ジャムズガーデン」へ。京都から移住された(株)瀬戸内ジャムズガーデン代表取締役松嶋匡史社長ご夫妻(奥様は地元の方)が、持続可能な農業を目指し、地元の農家が生産した果物を使って、ジャム作りをされています。果物のさまざまな個性を生かす工夫を重ね、常時20種類以上のジャムが揃っています。松嶋社長の行動力、探究心、ジャム愛が、家族や周りの人々を動かしていくお話に引き込まれました。

周防大島は、深い歴史と共に、自然と人の魅力にあふれた温かいところでした。これからますます注目されるに違いありません。自分ならどうガイドするか考えながら、幸せな気持ちで帰路につきました。

### HIGAの活動報告 (2019年12月～2020年10月)

12月 1日 (日) HIGA研修旅行「周防大島～人、自然、歴史文化が輝く瀬戸内の要所」

12月 5日 (木) 世界史講座「南スラヴ諸国の歴史」

1月25日 (土) 平和公園ガイド実践勉強会 (1～3年目のガイド対象)

2月10日 (月) 岡山研修 (後楽園・倉敷美観地区)

2月22日 (土) 2020年度定時総会

相鉄グランドフレッサ広島にて、ご来賓・会員合わせて100名が出席して開催。

中国運輸局観光部長 九鬼令和様をはじめ9名の来賓をお迎えし報告・審議が滞りなく行われて総会を終了。引き続き懇親会にて親睦を深めた。

6月 7日 (日) 通訳ガイド実務新人研修 (Zoomでオンライン研修)

6月20日 (土) 第1回学習会 (内容を変更し、Zoomでオンラインミーティングを実施)

9月13日 (日) 文化講演会「広島と移民」講師：安藤福平氏 (広島県立文書館 名誉館員)

会場：一般4名、会員16名、Zoomで視聴会員75名、合計95名参加

## 2020年度 第1回学習会

### 『Zoomでオンラインミーティングを体験』-自宅から学習会に参加-

英語会員 田坂 雅江

4月、今年の学習会は例年の一堂に会しての会議形式を取らないことにしたため、私達学習会メンバーの準備は、予定していた発表の持ち越しと会場のキャンセルから始まりました。入会2年目で学習会担当1年目の私は右も左もわかりませんでした。しかし、「中止」ではなく、「オンラインミーティングを体験しよう」と先輩メンバーたちは素早く対応。それから当日まで毎週土曜日にミーティングを重ねました。

ツールとしてZoomの使用を決定するも課題も多く、学習会に先立って事前練習会をすることになり、5月30日、31日、6月1日の3回に分かれて計62名が参加して、入室の仕方、機能の使い方などの練習を習熟度に応じて行いました。

そしていよいよ、第1回学習会当日10時。参加者は70名です。時間になると、練習会の成果もあってか、皆さん続々とミーティングルームに入室されます。無事そろったところで古谷会

長のご挨拶をいただき、スクリーンショットで記念撮影（いろんな背景がまた楽しい）。その後、ブレイクアウトルームで8グループに分かれ、「クールジャパン これがすごい 海外に自慢したい日本」と題し、各自1分間のプレゼンです。グループ毎にグループで最も自慢できる日本文化を「ピカイチ」として決定し、再度全員集合したところで、各グループの「ピカイチさん」にスポットを当てて紹介。最後は音楽の流れる中、チャットで感想を書いてもらいながらの退出です。終始和やかに進行し、無事閉会となりました。

このオンラインミーティングの体験は会員に新しい挑戦へのきっかけを与えてくれました。大変な時期でも、前進するHIGAの力を見たように思います。（なお、参加者のプレゼンのテーマはHIGA公式サイトで会員専用ページに掲載しています。）

## 仕事の現場から

一通訳ガイドが語る、あんなこと、こんなこと

### 広島を観光地をリモートで通訳ガイド

理事 畠崎 雅子

今年の春、これまでご依頼をいただいていた東京の団体から、通訳と通訳ガイドの仕事への問い合わせをいただきました。7月下旬に、日本に滞在中の外国人を対象として2日間の広島研修を行いたいというご希望です。何度か連絡を取り合い、今年は実際に広島を訪れることは難しいので、リモートでの通訳ガイドを行うこととなりました。

これまで、リモート通訳やリモート講習会は何度か行ったことがあったのですが、リモート通訳ガイドは初めての体験となりました。リモート通訳ガイドを行う場所は平和記念公園と宮島でした。平和記念公園の碑巡りでは、約1時間30分、平



平和の像「若葉」（湯川秀樹歌碑）

和記念資料館の入口から慰霊碑、原爆の子の像、原爆ドームを一周して、また資料館入口に戻るルートを英語でガイドしました。私が歩きながら説明している様子を、ご一緒したスタッフの方が小型カメラで撮影してくださいました。東京では10名程度のその団体の参加者の方が映像をライブで視聴しています。宮島では宮島棧橋から厳島神社出口まで約2時間かけてカメラに向かって見どころを案内しました。

今回、初めてリモート通訳ガイドに挑戦して、通訳ガイドはまさに「インタラクティブな体験」であることを再認識しました。歩きながらのカメラ撮影では、私の説明を聞いてくださっている方のお顔が見えません。通常に通訳ガイド時には、目を輝かせて聞き入ってくださいしているお客様の姿に励まされるのですが、リモート通訳ガイドではその姿を目にすることができません。この点はとても残念でした。しかし、今回、リモート通訳ガイドを行うことで、広島を訪れることのできない方々にライブ映像で広島を紹介できたことは得難い機会でした。

## 「SEA SPICA」で島たびクルーズ

英語会員 福島 満美子

10月に就航したSEA SPICA（シースピカ）は、広島港と三原港を結び、瀬戸内の観光地、大久野島、御手洗、音戸の瀬戸、呉などを巡ることができる観光型高速クルーザーです。12月まで金～月曜に、西向きコースと東向きコースが運航されますが、今回、西向き航路に乗船しました。

西向き航路は、三原港を13時25分に出港します。生口島などの島々を眺めていると、30分ほどで最初の上陸地大久野島に到着。30分間、野生のうさぎと触れ合うことができます。次は40分乗船して、大崎下島へ。江戸時代の町並みの残る御手洗地区を1時間ほどゆっくり散策しました。どちらの島も観光客に人気ですが、アクセスし難いため、船に乗って一日で両方観光できるのは、大変魅力的です。

御手洗からは、広島に戻るまで船上からの見学になります。ガイドさんの説明に耳を傾けながら、オープンデッキでのんびりとくつろぐもよし、売店で飲み物やオリジナルグッズの買い物を

楽しむもよし。呉では艦船が並ぶ海上自衛隊呉基地の沖合で、撮影タイムも。間近で見る本物の潜水艦や護衛艦に、乗客の皆さんは大興奮でした。広島港に向かう途中、美しい夕焼けも見ることができ、18時までの4時間半は、魅力満載の充実した半日となりました。

なお、東向き航路は、朝、広島港を出発し、下蒲刈島の三ノ瀬地区と大久野島に上陸し、13時15分に三原に到着します。最近運行開始した、観光列車「etSETOra（エトセトラ）」と組み合わせてのツアーなども楽しそうです。瀬戸内海の魅力を再発見できる「島たびクルーズ」、ぜひ体験してみたいはいかがでしょうか。



## 宮島で外国人観光客の受け入れ準備進む

英語会員 蔭地 美紀

宮島口の旅客ターミナルが新しくなった。旅客ターミナルには飲食店が入る商業施設「etto」が隣接し、観光客にとっていっそう便利になった。旅客ターミナル内で天井を見上げると、ガラスから注ぎ込む光と木の香りにぬくもりを感じる。廿日市の観光協会では、「木工のまち、はつかいち」を広く知ってもらうため、壁や天井に木をふんだんに使った、と話してくれた。

外国人観光客への配慮が随所に見られる。例えば、2つのフェリー会社の案内が赤と青に色分けされ、乗り場までの経路が分かりやすい。ATMと特大サイズのコインロッカーが設置され、車椅子5台も常備されている。



ターミナル入口の観光案内所内の壁には、国文学研究資料館所蔵の「厳島図絵」が印刷されている。宮島の名産である杓子を型取った黒板には干潮、満潮時刻が掲示されており、潮の干満による見どころへの興味がそ

そられる。

厳島神社大鳥居は、残念ながら老朽化で現在も修復が続いている。厳島神社の職員の話では、思った以

上にフナクイムシ（二枚貝の一種）、キクイムシ（甲殻類の仲間）などによる鳥居の内部への被害も大きく、修復にはあと数年はかかると言う。

新型コロナウイルス感染防止のため、厳島神社内の手水舎には、水も柄杓も無く、現在は使用されていない。手も心も清めるための水の代わりに消毒液が備えられ一安心した。

厳島神社は鳥居だけではなく、高舞台の周辺や客神社の修復工事も行われ、国内外からの観光客の受け入れの整備が進んでおり、大鳥居の修復が楽しみである。私も、外国人観光客へのおもてなしや、もっと観光客が興味のわく資料や本の準備、工夫を考えておきたいと感じた。



# 賛助会員の皆様の取組みについて

事務局長 今田 裕子

当協会の賛助会員として、いろいろな分野の企業・団体・個人の皆様にご協力いただいております。今コロナ禍の中で、観光関係の皆様が行っておられる取組みについて、記事をお届けします。



つばめ交通株式会社は県内でも有数の、海外客接遇にも秀でた旅客輸送会社である。営業部マクマン幹子さんにお話をうかがった。コロナの影響でバス・ハイヤー・タクシーのキャンセルが相次ぎ、4～6月初めの自粛時はタクシーが実質休車状態のこともあったとのこと。6月終わりに自粛が解け、少しずつタクシー・ハイヤーの利用は増えたが、バスは送迎を除き観光ではまだ戻ってきていない状況である。その間、コスト抑制に努めるなど社内的に取り組み、コロナ感染対策も徹底して行っている。



また、視点を変え開発した商品「HIROSHIMA プチ留学」(写真)を販売開始。海外留学が決まっ

ていても出国できない日本人学生などを対象に、英語を話せるドライバーがジャンボタクシーで広島を英語で案内するというもの。9月は5件行われ好評だ。収束後を見据え、その他の新たな観光プロダクト開発にも積極的に取り組んでいる。

「コロナ以前には考えなかったタイプの、新しい旅行プランを開発できた。コロナ禍がいつまで続くかわからないが、国内のお客様の案内も大事にしながら、インバウンドの回復を待ちたい」とのこと。



(写真：地域通訳案内士資格もお持ちの青田ドライバー(右) とお客様)

広島県民文化センターは、コンサートホール・芸術展示会場・宿泊施設などを備えた多目的施設。「ひろしま神楽」の魅力を伝えることを目的として、毎年4～12月の毎週水曜日夜に「広島神楽定期公演」を開催、様々な神楽団による公演を行ってこられた。森政雄館長にお話をうかがった。本公演は今年で7年目を迎えることになっていた。多い時は60～70人の外国人客が公演を鑑賞することもあった。当協会の古谷会長ほか会員が、一部の演目の英語パンフレットや字幕の作成で協力している。残念ながら、今年はコロナのため全日程の公演が中止となった(同系列のRCC文化センター主催で外国人客のみ対象の「An Evening of Kagura」も同様)。最も深刻な自粛時には1カ月間休館も強いられ、今年度は大変厳しい状況とのことである。

そんな中でも朗報は、JRとのコラボレーションによる「せとうち広島デスティネーションキャンペーン」。10月24日、11月21日の特別公演が舞台で開催される。11～12月にかけては無観客公演ライブ無料配信も行う。神楽ファンにもうれしいニュースである。徐々に会場でのイベントも行われ始め、「10、11月の特別公演を機に、先を見据えての取組みを行っていくことが今後につながると思う」とこれからの回復に期待をかけておられた。

公演日	12:00~	14:00~	16:00~	18:00~
11/3	宮崎子ども神楽団	宮崎神楽団	吉和神楽団	高井神楽団
11/28	亀山子ども神楽団	亀山神楽団	茂田神楽団	大森神楽団
12/5	有田子ども神楽団	有田神楽団	郡山子ども神楽団	吉田神楽団
12/6	飯室神楽団	穴笠神楽団	鈴掛神楽団	下五原神楽団 宮乃本神楽団
12/19	あおぞら子ども神楽団	上中瀬子神楽団	松原神楽団	琴庄神楽団

※特別公演、無観客公演無料ライブ配信については、広島県民文化センターHPをご覧ください。

(URL: <https://www.rcchall.jp/bunkac/>)

TEL: 082-245-2311 / FAX: 082-245-2315  
 〒732-0066 広島市東区牛田本町 4-5-10  
 082-221-1955  
<https://www.tsubame.co.jp/>

## 2020年度 新人研修に参加して

仏語・韓国語会員 村上 伸子

例年ならば実地で行われる新人研修は、今年はコロナ禍により、オンラインで6月7日に行われた。Zoomによる会議に参加するのは初めてだったが、幸いHIGAの学習会もZoomで行われ、その事前練習会が1週間前にあったので、Zoomの使い方を予習することができた。

オリンピックが開催されるはずだった今年、新人の数は意外にも少なく、参加者は4名プラス昨年入られた方の1名だった。例年のように宮島や平和記念公園での実地研修はないので気楽だが、なんだか試験が延期されたような感じだ。

まず、今田裕子事務局長からHIGAの歴史と業務の概略、アサインについて説明があり、続いて長尾光恵会員が実際のガイドの仕事の流れを、研修参加者に質問を投げかけながら丁寧に説明して下さった。エージェントとの事前確認事項から、ツアーの準備の仕方、観光スポットのチェック、就業当日の注意、お客様への確

認事項、留意点、就業後の報告書の作成・提出まで、確認すべき点のなんと多いことか。ぼーっとしていたら大変だ。

また、ツアーを成功させるコツも伝授していただいた。お客様の要望にできる限り応えること、「特に食事はツアーのハイライトとも言え、大変重要」、「ツアー終了が17時なら、もう少し案内したいと思っても、17時になるぎりぎり前の時間に終える」、「下見では動線を確認し、その土地の空気を知る」、「質問されてわからないことは知ったかぶりをせず、後で調べてメールするなど丁寧な対応を心がける」などなど。

ガイドの仕事は限りなく奥が深い。勉強にはきりが無い。だが千里の道も一歩から、お客様の楽しい旅をお手伝いするのが仕事と心得て、コロナで旅行もままならない昨今、せめて近所の宮島だけでも歩き回り、宮島ならまかせて！と言えるようにがんばろうと思った。

### 【ご協力ありがとうございます】

~with sincere thanks~

HIGA賛助会員の皆様 (2020年10月現在 順不同、敬称略)

団体会員： 広島紅葉ライオンズクラブ 広島商工会議所 広島トヨペット (株)  
 (有) はやし JTB協定旅館ホテル連盟広島支部 つばめ交通 (株)  
 (株) 藤い屋 (一社) 広島県観光連盟 カフェ・ポンテ 岩惣  
 広島県民文化センター

個人会員： 古谷 英明 延本 真栄子 吉中 康麿 嘉屋 基一 藤井 倫子  
 清水 憲吉 辻 孝和 吉井 敏弘 川北 正明 龍山 壬生子  
 河野 博行 海生 直人 くらわんか 青野 重信 藤井 芳子  
 ぎやらりい宮郷 田島 謙治 花やしき

賛助会員としてご協力くださる団体、個人の方を募集しています。ぜひこの機会に入会をご検討くださるようお願いいたします。年会費は一口につき団体会員2万円、個人会員5千円です。団体会員には、HIGAニュースに広告掲載の特典があります。

お申込み、お問合せは当協会事務局 082-243-8346 (月~金 13:00~16:00) まで。

※現在新型コロナウイルス感染拡大に伴う対応のため、事務局受付時間を短縮しております。ご理解とご協力をお願い申し上げます。

本誌へのご感想・ご意見をお寄せください。HIGA事務局へFAX・Eメール: [higa@urban.ne.jp](mailto:higa@urban.ne.jp) どうぞ。

【表紙の写真】英語会員 福島 満美子

【編集後記】外出自粛でBBC Newsを読むのが日々の楽しみとなった。COVID-19関連でsocial distancingの語にしばしば出くわす。distanceには名詞と動詞があり、distancingは動詞から派生した語である。'measures such as social distancing, hand washing, ~、時に、'when it is difficult to socially distance~' もある。国内では、「ソーシャルディスタンス」や"Keep distance"のdistanceは名詞で、distancingのingの微妙な含意が損なわれているのでは。グローバル時代だから、どこでも応用でき通用する言葉が欲しい。これはその一例。(MT)



広島平和記念公園対岸  
元安橋たもとのオープンカフェ

**Caffè Ponte**  
カフェ・ポンテ

【住所】広島市中区大手町1丁目9-21  
【予約専用電話】082-247-7471  
年中無休

大正十四年創業

 **宮島 藤い屋** 

〒739-0588 広島県廿日市市宮島町 1129  
TEL 0829-44-2221 FAX 0829-44-2022  
オンラインショップ <http://www.fujiya.co.jp>